「コフレドール」に夏の新商品・新色

カネボウ

カネボウ化粧品は「コフレドール」新製品・新色を6月2日に発売する。これに合わせてトータルメークプロモーション第2弾を実施し、夏に向けたほのかな色っぽさのある女性らしいメークを提案する。

同社美容研究所によると、すっぴん風のナチュラルメークから徐々にメーク感が戻り、昨今は口もとの色味やツヤ感を強調するメークがトレンドになっている。

そこで今夏の「コフレドール」では上品な色っぽさを自分らしく演出するソフトグラマラスメークを提案する。やわらかな色合いのまぶたに目尻を強調したラインと、ツヤのある色づいた唇、目もとにはラインを目の幅よりも長目に引いたり、目尻に赤みのある色をのせ、口もとにはブライトカラーや深みのあるカラーを使用する。

「ソフトグラマラスアイズ」（全4種）は目尻に引いたライナーカラーを深みのある色でぼかすことで目尻に自然な陰影をつくる5色セットのアイシャドー。まぶたの透明感を引き出すハイライトカラー、目もとに美しい色合いを与えるミディアムカラー、濃密な黒色パールを配合した目尻ライナーカラーのほか、なじみシャドウ、ニュアンスカラーをセットした。

うるおい感の高い「プレミアムステイルージュ」（新8色）には鮮やかなブライトカラーと深みのある大人っぽいカラーなどをラインアップした。

5月下旬にスタートするトータルメークプロモーション第2弾では、TCVMや店頭テスター、販売台を通じて目もとや口もとを中心にしながらポイントメークを引き立てるベースメークも紹介する。アイシャドーのCMでは商品機能に加え、「コフレドール」の世界観を伝えていく。

SHISEIDO」より先端テクノロジー結集した美容液

資生堂

資生堂は6月1日、グローバルブランド「SHISEIDO」の最高級ライン「フューチャーソリューションLX」より、先端テクノロジーを結集した新美容液「スーペリアラディアンス セラム」（30mL 2万5000円）を、全国のデパート107店（2015年4月1日現在）と、資生堂Webサイト「ワタシプラス」にて販売する。

美肌を阻害するもととなる悪玉因子（セルピンb3）が存在していることを2006年に突き止めた同社では、この悪玉因子に着目し、7年の歳月をかけて研究開発した成分「スキンジェネセル1P」「スキンジェネセル1PG」を「フューチャーソリューション LX」に配合している。

今回の新美容液では、「最高に輝く肌イメージはムラのない均一な肌の状態とキメの整ったなめらかな表面からつくられる」との考えから、上質な輝きに満ちた日本最高峰の真珠「花珠（はなだま）」の輝きに着目した。

汚点が一つもないなめらかな外観と、微細な質感により、独特の深みと気品のある輝きを放つこの真珠にインスパイアされた新技術「デュアル アクション スーペリア パール技術」により、様々な肌悩みが起こりにくい肌へと整え、真珠のような輝きにあふれる生きいきとした肌へ導き、自分史上最高の美輝白肌（びきはくはだ）を実現するという。

独自成分配合のオールインワン美容ジェルを発売

森永製菓

森永製菓は4月13日、独自開発素材「パセノール」を配合した初めての化粧品として、オールインワン美容ジェル「モイストジェル」（150g 3000円）を、ヘルスケアブランド「天使の健康」から通販限定で発売した。

昨年7月に発売を開始した「パセノール」配合のサプリメント「パセノール（粒）」「パセノールドリンク」は、年齢によるくすみ・たるみ・つかれなど悩みをもつ女性の支持を得て、売上計画比257%と好調を続けている。

そこで今回は、ブランド初となる化粧品として化粧水・乳液・美容液・クリーム・化粧下地の機能を備えた手軽で使いやすいオールインワン美容ジェル「パセノール（TM）モイストジェル」を投入。独自開発素材「パセノール」のほか、コラーゲン原液を25%と贅沢に配合しており、美肌のための内外美容を提案していく。

差別化にあたっては、オールインワン化粧品には少数派のチューブ容器を採用。量を簡単に調整できるよう使いやすさにもこだわった。また、パッションフルーツのような爽やかな香りをローズオイルとオレンジオイルの組み合わせで実現していることを表現するため、容器表面にはパッションフルーツのつたをイメージした上品な模様をあしらっている。

「アスタリフト」から美白シート状マスク

富士フイルム

富士フイルムは5月15日、スキンケアシリーズ「ASTALIFT WHITE（アスタリフト ホワイト）」の新たなラインアップとして、美白シート状マスク「アスタリフト ホワイト ブライトニングマスク」（医薬部外品）を発売する。

「ブライトニングマスク」には、シリーズ共通の独自成分「ナノAMA」を高濃度に配合。この他にも、独自技術でナノ化した赤色の美容成分「ナノアスタキサンチン」や「3種のコラーゲン」などのうるおい成分も配合しており、美白有効成分「アルブチン」と組み合わせて配合することで、透明感にあふれ、輝きに満ちた美白肌に導く。

今回、美白有効成分がメラニンの生成を抑制し、集中的にケアできるシート状マスクをラインアップに加えることで、シリーズをさらに強化していく。

美白と保湿叶える進化型ジェル

キューサイ

キューサイは4月1日、2009年3月の発売以来、ジェルシリーズの累計販売数が1000万個を突破している「コラリッチ」より、美白と保湿を叶えた進化型ジェル「オールインワン薬用美白ジェルクリーム」（医薬部外品、50mL 5800円〈税込〉）を発売している。

美白有効成分「トラネキサム酸」が、シミの原因であるメラニンの生成をブロックし、これ1本でシミ、そばかすを防ぐ。また、4つのビタミン誘導体を厳選して配合。5つの植物エキスが、紫外線による肌ダメージをケアし、うるおいを与えて、みずみずしい輝く肌へ導く。

「女心」攻略データベース

第59回　努力している姿は見せたくない

女性にとって「美肌」は永遠のテーマですが、その「美肌」にもトレンドがあります。

今、注目されているのは「エフォートレス肌」。これは、フランスの女優、シャルロット・ゲンズブールやソフィア・コッポラが元祖と言われるファッション「エフォートレス・シック」から生まれたトレンドワードで、いよいよ美容のジャンルでも使われるようになりました。

effortlessを直訳すると「努力無し」ですが、実際に使われている意味は、本当に努力しないでいいということではなく、隠れた努力があってこそ手に入るカッコ良さ。あたかも「エフォート（努力）」をしていないかのような自然なスタイルが一番カッコイイということです。なので、ファッション同様に「エフォートレス肌」とは、努力の跡を全く感じさせることなく、知らん顔しながら万全のケアを怠らないことで、あたかも自然に見える美肌ということになります。

具体的には、エイジングケアをふまえた美白を中心に、透明感のある肌をつくるという事になるのですが、同じプロセスで完成した肌を手にいれていたとしていても、多数のメディアで取り上げられてきた有名な美容家と呼ばれる人たちの肌が、どこか古く見えてしまうのは何故でしょうか。多分、「美は一日にしてならず」といった教訓をかかげて、キレイのために、どれだけ努力しているかを語れば語るほど古く見えてしまうのだと思います。

「これだけ手をかけています肌」は、気分として「エフォートレス肌」の真逆にあるからでしょう。わかりやすく言えば、いま、女心に響くのは、努力を感じさせない、頑張りすぎない「抜け感」を体験できるビューティーと言い換えることができます。

2015年は春夏から引き続いて、秋冬もエフォートレスなファッションが主流になりそうです。あれもこれも取り入れて、盛りだくさんの上に成り立っている美しさではない、一見、肩の力が抜けて見えるけれども、実は計算された「抜け感」を体感したいと思う方には、まず、きれいめカジュアルに合わせているローファーやスリッポンといった革靴に代わる、トレンドのスニーカーを購入することをお勧めします。足元の「抜け感」をマスターできれば、時代の女心に近づけるはずです。

執筆者・中村浩子

●執筆者プロフィール●

中村浩子
㈱ヴィーナスプロジェクト代表取締役社長

聖心女子大学在学中より、光文社「JJ」にてファッション・ライフスタイルを担当。その後「VERY」「STORY」の編集、企画を経て独立。
株式会社セブン＆アイ出版スーパーバイザーを経て、現在は一万人の読者モデル発掘の経験と女性消費者を取材し続けながら、ファッション、ビューティに関するブランドプロデュース、コンサルティングなどを行う。

●解説者プロフィール●

中野靖識　㈱船井総合研究所　上席コンサルタント
小売業を中心としたマーケティング戦略立案および実行支援を主業務としている。
特に、現場の戦術、戦闘レベルの業務である商品構成・売場作り、プロモーション、それらを最大限に活かすための社員教育までカバーしている。戦略立案から現場へ落とし込むまでの一貫した業務経験を豊富に有する。

問い合わせ先
株式会社ヴィーナスプロジェクト　小林
TEL 03-3408-7765
Mail venus-project@fine.ocn.ne.jp

〈余裕を表現することを考えよう〉

日本語辞典を調べてみると「鴨の水掻き」ということわざがあります。

「のんびり水に浮かぶ鴨も、水面下では絶えず足で水を掻き続けている。よそ目にはわからないが、人にはそれぞれ苦労があることのたとえ」と説明されています。

このことは見方を変えると、よい結果を出している背景は必ずあると言えるのではないでしょうか。

中村さんの言う「これだけ手をかけています肌」は、美肌の背景としてがんばっている自分を認めてもらいたいという自己主張をしていることだと思います。その自己主張が「余裕がない」という印象を与えることに繋がるのでしょう。

反面、「努力していない」という自己主張もみっともないものです。水に浮かぶ鴨がのんびり見えるのは、水かきしている部分が見えないからですね。

つまり、背景を感じさせない「余裕」が肩の力を抜いた印象を創り、より自然に感じさせるということでないでしょうか。

勤め人としてがんばる人を「社畜」という昨今、努力していることを自己表現することが「カッコ悪い」と感じる人が多くなっていると考えましょう。

努力するのは当然として、それを感じさせない余裕をいかに表現するかがポイントになりそうです。

執筆者・中野靖識